

旧制松江高で教壇・独学者

カルシュ紹介番組 優秀賞



山陰ケーブル制作

CATV中国アワード 丹念に功績取材

カルシュは、文豪・小泉八雲の著書で興味を持って来日。長崎で被爆しながら救護活動に尽力した雲南市出身の医師永井隆博士や、「暮しの手帖」で知られる花森安治氏らを教えた。力

メラを愛し、松江や大山の写真を多く撮った。

30分番組「松江を愛した外国人教師 フリツツ・カルシュ」では、カルシュに詳しい若松秀俊東京医科歯科大名誉教授(71)が、ゆかりの地を巡回して功績や人となりを紹介。カル

シュが残した松江の豪華な写真も交えて、往時の雰囲気を伝えた。

イメージシーンでは、地元のドイツ系アメリカ人教師がカル

シユ役を好演。70年ほど前のカメラを探し出して持たせるなど細部の演出にこだわった。

開局30周年記念番組として2017年1月に放送。「こんな人が松江にいたと初めて知った」との声が寄せられたという。企画構成や台本執筆、演出などを一手に担った大西友子ディレクター兼アナウンサーは「取材を重ねるたびに、もう一步、もう一步と知りたくなるほど魅力的な人物だった。一人でも多くの人に存在を知ってほしい」と話した。

大正末期から旧制松江高校（現島根大）で教壇に立ったドイツ人学者フリツツ・カルシュ（1893～1971年）の足跡をたどった、山陰ケーブルビジョン（松江市学園1丁目）の特別番組が、日本

アワードで、最優秀に次ぐ優秀賞に輝いた。丹念な取材に基づき知られざる功績に光を当て評価された。受賞を記念し8月に再放送する。（陰山篤志）

賞状を手にする大西友子さん。左上がフリツツ・カルシュ

フリツツ・カルシュの功績を振り返る番組の一コマ（山陰ケーブルビジョン提供）

再放送は8月15、16、25、26、27、29、31日に予定している。